

痔核に対する痛みが少なく、 肛門機能を温存した手術

札幌いしやま病院
札幌いしやまクリニック

理事長 石山元太郎 医師

最も多い内痔核と、肛門の仕組み 可能な限り機能を温存する治療を

痔核の症状と 治療法は？

肛門疾患の中で一番多くみられるのが痔核(イボ痔)です。その中で最も頻度が高いのは、肛門の内側の粘膜にできる内痔核です。肛門は、便やガスが無意識に漏れないように括約筋という筋肉で閉じられていますが、これだけでは不十分なため、肛門の出口から数センチのところに「クッション」と呼ばれる、水道の蛇口のゴム栓のような役割を担う部位があります。排便時のいきみなどでクッションが腫れ、本来あるべき位置からずれ落ちた状態が内痔核です。さらに、このクッションが肛門の外まで出てくる状態を脱肛といいます。

内痔核の多くは保存治療で改善しますが、出血や脱肛の程度によっては外科的療法が必要になります。かつては肛門粘膜部を全周で切除し、残った直腸側と皮膚を縫う手術が主流で、術後に肛門の機能が損なわれるケースもありましたが、現在、専門病院では肛門機能を温存

した治療が行われています。現在の外科的療法では、近くに流入している動脈を結紮(けつさう・縛ること)し、痔核を切除する結紮切除術が一般的となっていますが、より肛門の機能を重視した手術に「ACL法」があります。これは、ずれ落ちたクッションを本来あるべき位置に戻して括約筋に固定する手術法です。術後の痛みを軽減でき、大量出血の可能性も少なくなり、入院期間も大幅に短縮できるようになりました。

その他の肛門疾患としては、肛門の周りに膿のたまりができる痔瘻や、肛門の出口が切れる裂肛、直腸が肛門から脱出する直腸脱などさまざまな疾患があります。

特に痔瘻では肛門の深い部分にまで病巣が広がる場合があります。治療には技術と経験が要求されます。手術で肛門の周囲の括約筋が傷つくと、便漏れなどの恐れがあり、可能な限り機能を温存できる治療法を選ぶことが大切です。

札幌いしやま病院／札幌いしやまクリニック

直腸肛門疾患の専門病院として1977年にスタート。現在、年間約5万人の肛門疾患治療を行なっている(2018年12月現在)。痔核の治療では、痔核を切り取らずに本来の状態に戻す肛門の美容形成術を開発し、実施している。また、難治性痔瘻の治療も手掛け、全国各地の病院から手術依頼が寄せられ、年間800例を超える痔瘻手術を行なっている(2018年12月現在)。

INFORMATION

札幌いしやまクリニック(外来診療)

【所在地】札幌市中央区南15条西11丁目 ☎011-551-2241

札幌いしやま病院(入院診療)

【所在地】札幌市中央区南15条西10丁目 ☎011-561-2241

【診療科目】肛門外科、内視鏡外科(大腸・胃)

【診療時間】※火曜の午後は女性専用受付

月・火・金 9:00~11:30 13:30~16:00

水 9:00~11:30 13:30~16:00

17:00~19:00

木・土 8:00~11:00

【休診日】日、祝日

【駐車場】有(40台)

【アクセス】じょうてつバス

「南14条西11丁目」下車徒歩1分

【HP】

<http://www.ishiyama.or.jp/>



札幌いしやま病院
札幌いしやまクリニック
理事長 石山元太郎 医師

札幌南高校卒。1999年東邦大学医学部卒業後、札幌医科大学第一外科入局。日本外科学会認定外科専門医。日本大腸肛門病学会認定大腸肛門病専門医。